

入学者のことば

新潟大学歯学部に入學して

歯学科1年 北谷 裕之



入学して4ヶ月が経ちました。早いものです。大学ってどんなところだろう？一人暮らしは大丈夫かな？……なんて、初々しいことから書き始めるのが、入学生のことばの冒頭を飾るに

はふさわしいのかもしれませんが。しかしながら、私はすでに大学を一度卒業しています。再受験し、そして今また大学にいるのです。

小さい頃から歯科医師になりたいという夢がありました。しかし、私自身それ相応の努力をできませんでした。そのため、現役の時はずだなんとなん、それでも多少興味のありそうな学部に入學しましたが、やりたかったことはこれなのか？って、ずっと引っかかっているものがありました。結局、そんな思いをどこか抱えたまま大学生活を送っていたので、勉学に関しては気が入らない感じでした。それでも、前の大学生活は陰々としたものではなく、すごく楽しいものでした。そのこともここできちんと話しておきたいと思います。その楽しさにどっぷりと浸かっていたので、思い切って途中で方向転換する気になれなかったのも事実です。気づいたら友達は就職活動や進学先決めの真最中。私はというと、1人フラフラしていました。

大学卒業後は就職もせずにアルバイトをしていました。この時期にいろいろと自分自身について考え直すことが出来ました。これでよかったのか？ 本当にやりたいことは？ 自分の夢は？一出た答えとして、小さい頃からの夢をそれまで以上に強く思うようになり、もう一度頑張ってみたいと決心しました。

親には何度目かは分からない一生のお願いということで、もう一回だけチャンスを頂きました。そして、「旧課程とはだいぶ変わったな……」というところから私の再受験は始まりました。

こうして、遠回りをしてきましたがようやく辿り着いた気分です。簡単ではありますが、理解して支えてくれた家族には本当に感謝しています。これからも自分の夢を忘れずに「努力」していきたいと思います。

入学して

歯学科1年 五月女 哲也



大都会であるはずの栃木県から新潟へ来て、万代橋界隈を見て、地元がど田舎であることが発覚し、なんやかんやしているうちに早いものでもう半年が過ぎた。時が経つのがすごく早い。

自分がおじさんになる日もそう遠くない気がして、少しドキドキする。

地元には日光あるし、東照宮には修学旅行生くるし、外人多いし、一応関東だし、と栃木を過大評価していた。修学旅行などで仙台などへ行ったとき、おや？と思うことは度々あったが、新潟で生活するようになりやっときづいた。栃木といえば最近し字工事が頑張っているが、あの訛り、つまり栃木弁は「崩壊一型アクセント」と呼ばれるらしい。ちばらぎ県人会で教授が仰っていたが、崩壊というのはちょっとさびしい。「ちばらぎ」という名前も、栃木は「ぎ」だけである。やっぱりちょっとさびしい。なので「とちばらぎ」にすれば、3県の名前がきれいに入っていて素敵であろうと思う。

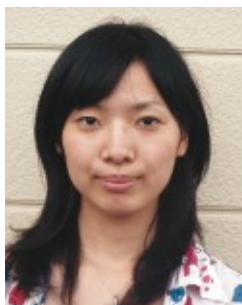
話は変わるが、私は弓道部に所属している。赤

塚での合宿の際、袴がかっこいいというのと、主将がなんとなくとてもいい人を感じたので入部したが、実際に部員となってみると主将はまさしくいい人で、それどころか先輩皆がいい人だった。今年の新入部員は私を含め2人だけだが、先輩方は初心者な我々に一から優しく丁寧に教えてくれた。そのおかげでデビュー戦のデンタルでは的に当てることができた。そして主将は男子個人戦でなんと優勝した。いい人なだけでなくとてもなく弓道がうまい人だった。主将は変わり新主将となった先輩は尊敬している人なので、部活がどんどん楽しくなっていくと思う。まだ弓道を始めて間もないが、奥深さを知り魅力を知った。イベントでは医学部との交流もあり、友人の幅も広がるので来年の新入生には是非弓道部へ入部してほしい。

最後は部活の宣伝になってしまったが、まとめるとこれからも頑張ります!!! という事です。

口腔生命福祉学科に入学して

口腔生命福祉学科1年 佐野仁美



新潟大学に入学して、もう4ヶ月が経ちました。大変だったこともありましたが、かなりあっという間だったように感じます。

私は昔から憧れていた歯科衛生士を目指し、新潟大学に入学しました。生活の中で重要な役割を果たす口腔の状態を整え、人々の健康を支えるという歯科衛生士の仕事の内容に惹かれ、目指すようになりしました。憧れていた大学の学科に入り、夢のような生活が始まる、と思っていました。しかし、大学は私の予想以上に大変なんだということに気が付きました。慣れない課題を出され、大学が嫌になったこともあります。

一般教養の講義や歯学スタディ・スキルズで出されるレポートにはとても苦労しました。高校ではこのような課題は出されないの、どのように

対処すればいいのか分からず、困惑しました。また、私はパソコンがかなり苦手なので、パソコンを使った課題が嫌で仕方ありませんでした。友達に聞いてばかりで、迷惑をかけたと思います。レポートもパソコンも将来的にとっても大切なので、これからもっと努力していきたいです。

早期臨床実習では、自分の体力・精神力の無さを痛感しました。長時間立っているのがとても辛く、早く帰りたいと思ってしまうこともありました。自分はこんなに弱くて将来大丈夫なのだろうか、と不安になることも多々ありました。

そんな私を支えてくれたのは、友達や部活動です。私と同じように歯や福祉に関する職業を目指す友人と一緒に過ごすことで、互いに励まし合い、努力することができました。また、部活では、大好きな運動をしたり、先輩方とお話することがとても楽しくて、私は元気をたくさんもらいました。

これから先、もっと辛いことが待っていると思いますが、自分を支えてくれる人達を大切に、歯科衛生士になるために精一杯努力していきたいです。

口腔生命福祉学科に入学して

口腔生命福祉学科1年 廣田絢花



高2の夏にこの学科を知って以来、ずっと念願だった新潟大に入学して4ヶ月がたちました。入学当初は、人数が少ない学科だし、とか初めての一人暮らし大丈夫かな、とか不安もたくさん

あったし、部活やサークルもたくさんあるし、履修登録も時間割をどう組んだらいいのだろう、とか高校とは全く違う制度に戸惑いも隠せませんでした。聞いていたとりの自主性を大切にする大学ならではの学習法であったり、高校時代には想像もつかなかったような字数のレポートやパソコンスキルを要する課題などには驚いたりもしましたが、何とかそれらもこなしてこれたし、いま

では友達もでき、先輩のアドバイスもお借りしながら履修登録した前期の授業も終えて、4月が懐かしく感じられるほどに大学生活にも慣れてきました。

週に1回の早期臨床実習では、病院に立たせてもらい、まだ専門的な知識はもっていないながらも、見学させていただける内容はすべてが新鮮でわくわくしていたと同時に、歯科のお仕事の大変さや難しさを身をもって感じる事ができ、2年生から本格的に始まる専門授業を頑張っていくよい土台となったように感じます。

あと半年となった、他学部の人たちと気軽に交流できる五十嵐での生活をとおしての友達づくりや、魅かれるもののなかから学びたいものを学べる教養を充実させていくため、いろいろなことに目を向けていきたいし、また将来歯科衛生士や社会福祉士となったときにも生かせるような資格取得などにも挑戦してみたいし、とやりたいことをたくさん思い浮かべ、こなして楽しい4年間の大学生活を送っていききたいと思います。

入学者のことば

歯科矯正学分野 高 辻 華 子



今年、新潟大学大学院医歯学総合研究科へ入学しました。大学時代には大学院進学は考えていませんでした。研修医時代に歯科の世界の深さを知るにつれ、大学院進学を考えるようになりました。大学院に入学し研究に携わるようになり、動物、ヒト、様々なものを使った実験が行われている現場に遭遇し、大学の研究がその分野の発展・向上に寄与していることがわかりました。つまりこれらの研究の実績により、結果が臨床に応用されたり、新しい製品や商品が開発されたりしているわけです。

研究はまさにその道の専門家にしかでき得ない特権、と言って過言ではないと思います。歯科医療に関して言うと、ヒトの身体にはまだまだ未知

の部分があつて、そのひとつひとつをその道の専門家達が探り合っています。民間にも研究者と呼ばれる人は多く存在しますが、そのほとんどが大学院で研究のベースを学んで世に業績の産物を産み出している人達です。同じ分野の研究をしている人の論文を読むと、その人がどんな本を読み勉強しているかがわかるようになります。これもまた刺激のかつその発想のおもしろさや研究発表の構成のうまさによって専門家たるやの一つ上の世界を垣間見ることができます。

新潟大学は今年から大学院のシステムが新しくなり、1年時より論文作成のための英語や統計学の講義を全員が受講するようになり、その他、研究のベースとなる実験方法などをコースワークという形で直接専門の先生方から教授して頂きます。

私は現在、医歯学総合病院にて臨床経験を積みながら大学院生活を送っています。研究では口腔生理学講座にて摂食嚥下の研究に携わっています。ヒトの口腔機能はこれまで多くのことが研究されてきましたが、まだまだ解明されていない事象や、人や企業が望んでいる情報が存在することがわかりました。私も専門家の一人として大学時代は考えられなかった新たな世界を大学院生活の中で広げたいと思います。

大学院に進学して

う蝕学分野 山 中 裕 介



私は今年の4月から、新潟大学大学院医歯学総合研究科、う蝕学分野に進学しました。昨年は新潟大学歯科総合診療室で研修してきましたが、研修が始まって直ぐに進路について考えていました。というのも、歯学部学生の時より「卒業したら、まじめに勉強する。だから学生の間は遊ぶ。」などと、今にして思えばかなりふざけたことを言っていたので、今後の自分が何をやりたいのか、初めて真剣に考えていました。そんなあり、

部活の先輩でありう蝕学分野の当時医員であった重谷先生に、大学院について相談に伺いました。大学院について聞き始めて十分後、『裕介今時間ある？』と言われた直後、興地教授との三者面談が始まり、教授の『ウェルカムですよ。』の一言で、大学院う蝕学分野進学が決定しました。その後、研究の手伝いをしたり、いつの間にか自分の研究を始めたりしているうちに、今年の6月には学会での発表もしてきました。ちなみに、いろんな意味で学会は楽しかったです。

大学院に進学して4ヶ月程経ちました。初めは慣れない環境で不安やストレスを感じたこともあった……と言いたところですが、性格上そんなことは全く感じることなく、のびのびと日々を送

らせてもらっています。やはりう蝕学分野の先生方が若手のための環境づくりをして下さっているおかげなのでしょう。

今は、外来での顕微鏡下での処置や秋の学会に向けての実験、そして書き始めたはいいけど全く進まない英語の論文、と様々なことにチャレンジさせてもらっています。うまく行かないことの方が多いような気もしますが、落ち込んでる暇はないのでとにかく突き進みます。

思わず飛び込んでしまったこの大学院生活を終えたとき、臨床技術の面でも知識の面でも大きく成長した自分がいることを期待しながら、一つ一つ経験を積み重ねていきたいと思います。